

私立短期大学図書館協議会

会報

Bulletin of Junior College Library Association

編集者：菅原春雄
 発行者：鈴木英二
 発行所：私立短期大学図書館協議会
 〒181 東京都三鷹市牟礼4-3-1
 東京女子大学短期大学図書館内
 電話(0422-45-4145 内234)

1986. 3. No. 18

雑感

—全国図書館大会に参加して—

鈴木英二

昨秋仙台市において開催された全国図書館大会に参加した。今回に限ったことではないが、この種の集會に出席するたびに感ずることは、短大図書館の抱える問題の根の深さ、複雑さであり、それだからこそその問題解決への道の峻しさ、遠さである。問題は多岐にわたるが、つまるところ大きく次の二つにまとめられよう。

その一つは、図書館としての基本的な要件、すなわち学習と研究を支えるに足る施設・設備、資料、職員が十分に確保されていない図書館がまだまだ多いということである。なかでも、資料費の不足とその当然の帰結としての蔵書の絶対量の貧弱さと、運営に当る職員の不足は、機能阻害の重大な要因となっている。東大文献情報センターの井上如氏は、大会での講演の中で、肥大化した四年制大学の図書館に比べ、短大の図書館は小規模なので小廻りがきき、却って運営がし易いのではないかと話された。それはそうかも知れないが、いくら短大でも平均33,000冊の蔵書と職員3名で、果たしてどれだけの機能が発揮できるであろうか。軽薄短小が喜ばれる時代とはいえ、小さければよいというものでもあるまい。

この問題は、それぞれの大学の財政事情や経営方針にかかわることで、図書館職員の努力で解決できることではない。大会でのパネル討議の際、フロアから設置基準の見直しについての提言がなされたが、これは改善の一つの突破口には違いない。公短協では概にその作業が進められているという。基準の引上げが直ちにレベルアップにつながるとは限らないが、各組織において検討してみてもどうであろうか。基準の引上げということは行政の力に頼るといふことだが、文部省には短大の図書館そのものを担当する部局がなく、したがって全国調査なども行われていないというが、これは一体どういうことであろうか。大会に担当官を派遣していただき、短大図書館の現状や問題点等も知ってもらい、何らかの助言も

頂きたいと要望したのだが、ついに現実を見なかったのも、担当部局は愚か係員1人配置されていないからであった。これでは短大図書館は、文部行政から忘れ去られた存在かと、ひがみたくもなるというものである。

いま一つは、短大図書館は短大の教育において、果してどれだけ有効に機能しているかということである。観点をかえていえば、短大の教育は、ほとんど図書館を必要としないところで行なわれているということである。学生1人当りの年間貸出冊数という数字がこのことを如実に物語っている。学生は図書館なしでも卒業できるのである。このことは、図書館の問題というよりも、むしろ教授法の問題であり、教育そのものにかかわる問題である。更に言うならば、わが国の教育風土に根ざしているともいえるのではなからうか。

しかし、図書館は教育の変革を坐して待つわけにはいかない。図書館が教育機関である以上、何がしかの教育変革を目指して活動を展開しなければならない。資料の収集と組織化、運用の適正化を図るとともに、図書館の有用性をアピールするとともに、学生に対する組織的・継続的な利用指導の実施などがこれである。パネラーとして発言された西南女学院短大の村上博子氏の実践は、この意味で傾聴に価するものであり、利用指導については短大大会の3年以内にわたる実践に学ぶことができよう。

大会において私は、数々の悪条件を一つ一つ克服し着実に実効をあげておられる多くの図書館員の方々を知ることができた。「教育は人なり」と言われるが、図書館もまた「人なり」の感概を深くするものである。状況はきびしいが、一步前進を目指し、手を携えて精進を重ねたいものである。

ふぐるま

▽ことしのメイン・イベントは、やはり8月に催されるIFLA第52回東京大会であろう。戦前では思いもよらぬこと。初期には開催国駐在の外交官が代理出席が多かった。ともかく東京で初めての大会、そのことが、わが館界の伸展を物語る証左でもある。せっかくの行事である。個人をはじめ公私の団体や機関の協力と後援によって、盛大裡に実りの多い成果を祈念する。

▽さて昨年につづいてJLA短大部会の由比会長の呼びかけで、短大図書館関係の5団体の連絡懇談会が新春そうそう7日に行われた。私も前任者として招かれ傍聴のチャンスを得た。もちろん、この会議はフォーマルな組織でなく、いわば各団体のびとの情報交換の集いに過ぎないが忌憚のない話合いができた。

▽現在短大図書館界の団体としてJLAの部会（個人及び施設会員）、公立及び私立短大図書館協議会（館単位）、さらに日短協と東短協（いずれも学校法人の組織で、

その一分科に図書館研究委員がある）と、それぞれ構成も異なれば目標や活動にも相違もあるが、窮極の目標は短大図書館の充実と向上に帰すると考えられる。従って重複する面は避けるか、相互に協力して、より充実して欲しい。また私短協などは各学校法人に対し図書館の充実を働きかけてもらいたい。仄間によると文部行政に「短大図書館」を司るセクションもハッキリしないし、NDLの「雑索」に短大紀要の論文が収録されていない。さらに設置基準等の底上げなど多く課題がある。

▽もっとも自主的に実施できると思われる近隣の学校間における相互貸借、コピー料金の精算法など着々と進めて行くべきである。

終りに熱心な各司書たちの研究グループに対しても調査、研究、出版費などの一部を援助できるような財源も欲しいと思っている。

（奎 郎）

もう昨年のことになったが、ある短大の方から短図協の仲間同士ということで、図書館の増改築のことで相談を受けたことがあった。どこもぼつぼつそういう時期に差し加かってきたのだろうか。

その図書館、蔵書量は決して多い方ではないのだが、大学の方針として取書に一定の質と量は確保しておきたいという。にもかかわらず図書館の増改築には直ぐには応じてもらえそうになく、もともと狭隘な図書館が最近では足の踏み場もない程の状態になってきて困惑しきっている。いっそ外の廊下に図書を平積みしてでもスペースの必要性を訴えようと思っている、ということであった。

この場合、図書を置くスペースの確保という考え方からだけで推し進めていくと、図書館は図書の館（やかた）つまり書庫であればよい、ということにもなりかねない。そこは、やはり教育に必要な場としての視点、学

インパクトの余波

習本質論からの必要性を提言することが肝要である。その後この話は好転している、と聞いて嬉んでいる。

話は変わるが、短図協結成のインパクトが斯界に与えた影響は大きい。確かに、80年代に入ってからの活動は着実に成果を上げていると思う。サークルに入った仲間の図書館は、徐々にではあるがお互いに啓発され、進展の度合いを違いはあってもそれぞれの向上を目指すようになった。問題なのは、何とかしたくとも日常業務に追われるだけの末加盟の小さな仲間たちに、時の流れの中でふと立ち止まって、これでよいか、どうすればよいか、を短図協は共に考える存在でありたい、と思う。

事情はあるにせよ、最先端をいく図書館と置いてきぼり図書館の両極化が進むであろう80年代後半は、短図協にさらに新たな課題を与えてくれたようだ。

（聖徳学園短期大学・安部叁巳・本協議会顧問）

＜地区活動報告＞

＜北海道地区＞

私立短期大学図書館北海道地区協議会では、1985年の講演会ならびに研修会を昨年10月22～23の両日にわたって開催した。

講演会は、今年も道内各館種からの参加者もまじえて行われた。テーマは「図書館員への期待—ルイス・ショアーズの考え方を中心に—」と題して、竹内蕪氏（図書館情報大学教授）が約2時間にわたって熱心に話され、われわれに先生の温厚な人柄とともに感銘を与えられた。

研修会は、加盟16館（その後17館となったが）の職員が参加して行われた。とくに近年は、加盟館の相互利用とコンピューター導入の二点に関心があつまっているが今年度も共通利用実現のための問題点について話し合われた。その結果、これが実現するためには、まず何よりも各短大内の理解と協力を得ることが先決であることについて意見が一致し、今後はそれを得るための努力を続けることを確認した。

また、コンピューターの導入については、前年度の研修会後の1カ年間に実施にふみきった館が増加してきている。その内容も受入・雑誌管理をはじめ、新収目録の作成までさまざまである。このほかにも新館の完成を契機として導入の実現を計画している静修短大図書館などのように、道内の短大図書館の大半にコンピューターが導入される日が近いことを期待している。そしてこれによって加盟館の相互利用が飛躍的に伸展することを希求している。こうした参加者の意向によって散会后、当日の会場の北海道女子短大図書館のコンピューター使用の実情を見学し、同館の職員の熱心な説明と指導が行われた。北海道地区においては、近年図書館の新築があいついでいるが北星女子短大、北海道女子短大について、静修短大では昨年10月に着工、86年9月末の完成を旨ざして、北国の寒風について工事が進んでいる。詳しいことはいずれ同館から報告して頂くことになろうが、地上3階、地下1階の4階建（2300㎡）の規模といわれている。

最後に、今年度から新たに北海道栄養短期大学（札幌市南区藤野）が加盟し、これによって当地区の加盟館は17館（道内25短大のうち）となったことを付記しておく。

（坂本記）

＜東北地区＞

前号第17号では、東北地区支部は昭和60年度全国大会

（仙台大会）の第4分科会（短大・高専図書館）の担当・企画・運営を行うことになった旨報告申し上げたので、その経過について報告の責任を果たします。

60年度の全国大会は主体は宮城県であるが、東北地区ブロックとして取り組んできたので、我々東北地区支部としては加盟館挙げて全力をつくして大会に結集したということになる。・「六無齋」の東北ブロックとしてはこれ以外に方法がなかったからである。

さて、60年4月の段階において過去1ヶ年間の準備の結果、第4分科会の取り組み方が決定し、分科会テーマも、「短期大学（含高専）における教育の現状と図書館のあり方」ときまった。問題はこの分科会テーマをどのように解明し、掘りさげて行くか、ということである。

すでにおおどころの行き方として、基調報告・パネルディスカッション・講演・実践報告の四本建てとすることがきまり、パネルディスカッションについてはすでに4月上旬において5名のパネリストの方々（池内 登、伊藤美代子、鈴木英二、村上博子、津田澁 氏）の出場の内諾を得ることが出来、司会者は椎葉徹子氏（予定）となった。

実践報告については、現場からの貴重な報告であるが原稿の第一部「短大図書館と機械化」、第二部「図書館利用指導」の二つはどちらか一つに絞った方がよいというもり・きよし先生の御教示があり、福井・山口大会以来、一つの焦点となってきた「図書館の利用指導」を取りあげることになり、発表者3名のうち2名の方（尾田真知子・八田義一両氏）の内諾を得ることが出来た。もう1名の方については5月に入って伊藤松彦氏にお願いすることが実現できたのは幸いであった。

60年5月、第1回全国図書館大会実行委員会（初年度の準備委員会を解消）が宮城県図書館で開催され、大会の大綱が決定されると共に各分科会の持ち方の大要が報告された。

60年5月31日、日本図書館協会短大図書館部会総会があり、規定により公立短大図書館協議会の由比 凌氏が部会長となられた。従って、第4分科会の「基調報告」は由比 凌氏と、高専側から津田澁 氏が担当されることになった。

また、高専側は閉会から溝渕までは短大図書館と同一の日程となるが、午後の実践発表は会場を別にして独自の「高専分科会」を持つことになった。

準備の段階でもっとも暗礁に乗りあげたのは「講演」(文部省担当官)であった。「基調報告」と「パネルディスカッション」を聴いて頂き、短大・高専教育の実態とこれに対応する図書館の在り方についての所感などを差し支えない範囲で行政サイドから述べてほしいという狙いであったが、1年前からの担当官派遣の交渉に対して、文部省という教育行政機構をバックにした「責任」の問題がつきまとう故か、軽々しく腰をあげられないというのが実状のようであった。最後には前述の由比 凌日図協短大図書館館長・日図協栗原 均事務局長さんまで文部省に足を運ばれて懇請されたが実現に至らず、「文部省担当官」の件は断念ということになった。

しかし、時期はすでに8月に入り、大会を2ヶ月後に控えて、文部省担当官以上の有意義な発言と指導助言を与えられる方に急遽お願いしなければならない立場となったが、この時、第一候補に挙げられたのが東京大学文献情報センターの井上 如(ひとし)先生であった。

井上先生は2年前、大学図書館協議会東北地区支部研修会(於東北大学)に講師として仙台に見えているので「みちのく東北」とは顔馴染みであり、要請に対して、第4分科会の前日夜、出張先の札幌より仙台空港に直行されることを約束された。

以上で、懸案はすべて解決、「パネルディスカッション」ご出場の5人の方々、実践発表ご担当の3人の方々はそれぞれ発表要旨を続々事務局に送付してこられた。9月に入って第2回運営委員会が開かれ、ついで10月中旬に第3回実行委員会が開催されて、準備万端完了、10月30日の開会式当日をむかえた。

秋深き、杜の都仙台に全国からの参加者1700名(第4分科会には174名)が参集、非常な盛会となった。IFLAのハンス・ピーター・ゲイ会長がウインストローム事務局長と共に出席されたのは今大会の特色である“国際色”をいやが上にもりあげた日本の図書館の将来を示唆するかのようであった。

「私短図協」本部からは鈴木英二会長はじめ、渡辺敏一事務局長表、本部理事の方々が挙げて来仙され、ご指導ご助言を頂いたことを心から御礼申し上げます。東北地区支部の会員一同、担当・進行・司会・記録・受付ETCを分担、大いに頑張りましたが、これは来る3月末に、「大会記録」が刊行されますので、これによって御承知ください。拝謝。

(中村)

<関東・甲信越地区>

活動報告

A. 幹事会

第3回幹事会

昭和60年6月26日 午後4:30～

日本科学技術情報センター

議題:合宿研修会について

第4回幹事会

昭和60年10月24日

目白学園短期大学図書館

議題:合宿研修会について

B. 合宿研修会

初めての試みとして、合宿研修会を開催した。目的は、
1. 相互協力の基本となる人的交流を計り、電話1本で、協力体制が行なえるようにして行く 2. 日頃の研修会等で学んだこと等をさらに深め、現場の実務に相応した研修成果を果たす。の2点である。

第1点に関しては、深夜遅くまでの自由討議と、2日目の史跡探訪によって相当の成果を上げることができた。

第2点に関しては、特集テーマに、コンピュータ化を組み、リブrosを主としつつ、東京女子短大の渡辺氏に講演とアドバイザーを依頼し、かなり深いところまで問題点を掘り下げられたように思う。

内 容

1. 講演:コンピュータ導入のメリット、デメリット
2. パネルディスカッション:コンピュータ導入を前にして期待すること、コンピュータ導入をしてみても、将来のネットワークについて
3. 自由討議 4. 討議一次年度研修会について
5. 史跡探訪

場 所

栃木県日光『幸の湖荘』

日 程

昭和60年11月19日(土)～20日(日)〔1泊2日〕

尚、昭和61年度の合宿研修は、新潟県を予定、特集テーマは、書誌の作り方と図書館利用指導を予定。

<東海・北陸地区>

(研修委員会報告)

日時:昭和60年6月18日(火)

午後1時～午後4時

場所:愛知淑徳短期大学

出席:4校(愛知淑徳・暁学園・大垣女子・東海学園女子)

議題

1. 研究会テーマと進行について
2. 総大会開催案内の発送について
3. 日本図書館協会の昭和59年度図書館調査票、回

収後集計と会報第15号への掲載形態について

(会報14号 58ページ 150部 60.7.1発行)

内 容

1. 図書館実務講座第2期第1回, 第2回記事
2. 特集: 文庫 図書館は文庫が嫌い?
3. 昭和60年度第1回幹事会記事
4. 昭和59年度事業報告及び決算
5. 昭和60年度事業計画及び予算案
6. 研修・編集委員会報告
7. 事務局報告

(研修委員会報告)

日時: 昭和60年7月5日(金)

午前10時~午後12時

場所: 愛知淑徳短期大学

出席: 4校(愛知淑徳・暁学園・大垣女子・東海学園女子)

議 題

1. 研究会テーマ決定
2. その他

(昭和60年度第2回幹事会)

日時: 昭和60年7月5日(金)

午後1時~午後3時

場所: 愛知淑徳短期大学

出席: 4校(愛知淑徳・暁学園・東邦学園・名古屋)

オブザーバー: 2校(大垣女子・東海学園女子)

議 題

1. 昭和61.62年度会長校の選考について
2. 昭和61年度総大会会場校について
3. その他

(1)図書館実務講座第2期修了証書の授与について

(昭和61.62年度会長校選考委員会)

日時: 昭和60年8月26日(月)

場所: 愛知淑徳短期大学

出席: 4校(愛知淑徳・大垣女子・東海学園女子・名古屋)

(昭和60年度第3回幹事会)

日時: 昭和60年9月20日(金)

午前10時30分~午後11時30分

場所: 東海学園女子短期大学

出席: 9校(愛知淑徳・暁学園・一宮女子・大垣女子・金沢女子・東海学園女子・東邦学園・名古屋・北陸学院)

議題: 総大会提出議案について

(昭和60年度総大会)

日時: 昭和60年9月20日(金)

午前11時30分~午後4時

場所: 東海学園女子短期大学

出席者: 22校(会員校外1校)38名

I 総会 午前11時30分~午後12時30分

1.開会 司会 東海学園女子短期大学 糸魚川功見

2.挨拶 会長 愛知淑徳短期大学附属図書館長
千葉 善根

会場校 東海学園女子短期大学学長

成瀬 辦皓

3.議長 東邦学園短期大学 柴田 智幸

4.協議

(1) 会勢報告 9月1日現在32校

(2) 昭和59年度事業報告及び決算

(3) 昭和61, 62年度役員改選について

(4) 昭和60年度事業計画及び予算案

(5) 昭和60年度事業中間報告

(6) 北陸地区部会報告

(7) 昭和61年度総大会会場校について

以上の議事について可決, 承認された。

5.図書館実務講座(第2期)修了証書授与

実務講座出席者35名を代表して, 聖徳学園女子短期大学日野満里子氏に会長より修了証書が授与された。

II 見学 午後1時~午後1時30分

東海学園女子短期大学図書館 「関山文庫」(古文書中心)

III 講演会 午後1時30分~午後2時30分

演題: 「森鷗外と脚氣」

講師: 東海学園女子短期大学教授 松井 利彦氏

IV 研究会 午後2時45分~午後4時

テーマ: 「図書を選択について」

進行係: 大垣女子短期大学 天野 信定

「図書を選択について」のアンケートの集計結果を中心にして活発な討議がなされた。

閉会 午後4時

(編集委員会報告)

日時: 昭和60年9月20日(金)

午後12時45分~午後1時15分

場所: 東海学園女子短期大学

出席: 6校(愛知淑徳・一宮女子・金沢女子・東邦学園・名古屋・北陸学院)

議題: 会報15号について

1. 「督促について」の特集をし, 各図書館からアンケートを取る事に決める。

2. その他の記事内容と執筆者を検討する。

3.タイプ、印刷、製本の役割分担を以下のようにする。

- (1) タイプ 愛知淑徳・東邦学園・名古屋
- (2) 印刷・製本 愛知淑徳

4.原稿締切を10月31日、タイプ締切11月10日、発行予定12月1日とする。

(研修委員会報告)

日時：昭和60年10月8日(火)

午後1時～午後4時

場所：愛知淑徳短期大学

出席：4校(愛知淑徳・暁学園・大垣女子・東海学園女子)

議題

1. 研修会開催日程について
 - (1) 昭和60年11月29日(金)

午前11時30分～午後4時
2. 研修会開催校について

候補校：名古屋短期大学・瑞穂短期大学・山田家政短期大学・金沢女子短期大学
3. 研修会テーマと進行について
4. 開催案内文書の発送について
5. 研究会(9月20日)「図書を選択について」の反省

(北陸部会研修会報告)

日時：昭和60年11月22日(金)

午前10時30分～午後3時30分

場所：北陸学院短期大学ヘッセル記念図書館

出席：5校

1. 講演：「レファレンス・サービス」について

講師：北陸学院短期大学ヘッセル記念図書館長
梶井 重雄
2. レファレンス・ツールについて

北陸学院短期大学ヘッセル記念図書館
尾田真知子
3. レファレンス具体例、及びフリートーク

(昭和60年度研修会)

日時：昭和60年11月29日(金)

午前11時30分～午後4時

場所：名古屋短期大学付属図書館

出席者：22校 29名

テーマ：図書館に於ける文書事務(収発・処理・流れ)について

助言者：東海学園女子短期大学図書館長職務代理
糸魚川功見

司会：愛知淑徳短期大学 夏目あさる

書記：東海学園女子短期大学 醍醐 光子

事例発表 午前11時30分～午後1時30分

1. 名古屋聖霊短期大学 水野 寿子
2. 愛知淑徳短期大学 玉置 清子
3. 金沢女子短期大学 長田 貞子

自由討議 午後1時30分～午後4時

(会報15号 46ページ 150部 60.12.1発行)

内容

1. 総大会(昭和60年度)記事
2. 特集：督促はどうしていますか?
3. 昭和60年度第2回幹事会記事
4. 研修・編集委員会報告
5. 事務局報告

付：昭和60年度図書館調査票

<近畿地区>

<新加盟館紹介>

- 大谷大学短期大学部図書館
- 関西鍼灸短期大学図書館
- 桜井女子短期大学図書館
- 西山短期大学図書館

近畿地区加盟館計58館(61年1月末)

<第14回研修会>

日時：昭和60年11月16日(土) 14:00～17:00

場所：帝塚山短期大学図書館

テーマ：「図書館奉仕」パネルディスカッション

参加者：26館54名

パネラー：嵯峨美術短期大学図書館 淀川 裕美
「利用者教育について」
帝塚山学院短期大学図書館 柏田 雅明
「レファレンス・サービスについて」
神戸山手女子短期大学図書館 諸岡 博美
「相互協力について」

はじめての試みとして、会員のみによるパネル・ディスカッションを実施。現場における具体的な処理方法や、苦勞、問題点などをパネラーが披露。パネラーを中心に意見交換を交えた討議が活発に行なわれ、所期の成果を上げ得た。

<図書館見学会>

1. 関西大学総合図書館

日時：昭和60年7月22日(月) 14:00～16:00

参加者：加盟館 42館 106名

未加盟 4館 7名

合計 46館 113名

2. 京都大学附属図書館

日時：昭和60年12月12日（末）14:00～16:00

参加者：加盟館 32館 48名

未加盟 4館 5名

合計 36館 53名

<幹事会>

第3回 昭和60年7月22日（月） 11:00～13:00

第4回 昭和60年8月31日（土） 14:00～17:00

第5回 昭和60年11月16日（土） 12:00～14:00

第6回 昭和60年12月12日（木） 11:00～13:00

<九州地区>

<総会および研修会>

日時：昭和60年4月23日（火）午前11時～午後5時30分

会場：公立学校共済組合「みやざき会館」

参加館：15館21名

<総会>午前11時～12時

—— 第二回短大図書館関係団体懇談会報告 ——

日時：昭和61年1月7日（火）午後3時～5時

会場：日本図書館協会6階会議室

出席者：12名

椎葉幹事司会のもとに、主催者側からJLA短大図書館幹部会長由比先生より招集の趣旨説明が行われ、つづいて各団体より活動状況の報告、問題点が出された。

○東京都私立短大協会図書館研究協議会

60年度の研究会「データベース」を中心とした概要について報告、61年度も研修会を計画中、時期未定
<報告書参照>

○日本私立短期大学協会図書館研究委員会

60年度北陸で実施された研修会の概要について報告
<報告書参照>また小冊子「機械化導入のガイドブック」「短期大学教育」特集図書館刊行「業務マニュアル」「司書の専門性」を刊行した。61年度研修会7月中旬私学会館で予定

○公立短大図書館協議会

かねてから短大設置基準の見直しの検討を行っている。また公立短大図書館職員実態調査を実施した。念願の公立短大独自の研修会第1回が3月奈良において開催・テーマ「情報化と図書館」

○私立短大図書館協議会

活動として役員会、総会、研修会（全国的、地区）の開催、会報、紀要の発刊・加盟館職員名簿の発行。61年度研修会未定

○日本図書館協会短大図書館部会

図書館大会開催準備・役員会及び各種委員会へ出席。第3回利用指導ワークショップの開催、短大大会規程

昭和59年度事業・会計等報告および審議

イ 事業

①雑誌総合目録について

②本会の今後の運営について

ニューズレター、次期会長館、研修会、来年度総会のもち方、九州地区大図協、文書の発送・回覧

ロ 会計報告

<研修会> 午後1時～5時30分

イ 利用を高めるための運営改善と利用教育

①西南女学院短大から 西川 忍司書

②東筑紫短大から 平田智子司書

ロ 大学・短期大学図書館で機械化はどのようにすすんでいるか。

全国の状況—その実状・問題点・展望

共同調査報告 鹿児島短大 田中 輝男主査

ハ 承合事項、協議題の報告と協議

の改正案検討・来年度ワークショップ第4回は名古屋において開催予定、図書館大会は61年度末の3月19～20日の2日間東京で開催。

○今後の課題・文部行政の（短大図書館の窓口の設定 大学図書館職員講習会へ短大図書館職員も参加させてほしい。また大学図書館実態調査が行われている。が短大図書館もその中に加えてほしい。）の確立化促進と国会図書館への要望として雑誌記事索引に短大の紀要類の収録など今後おしすすめていく。

以上各団体より報告がされた。

続いて公私共通の問題、課題が論議された。それは、先の仙台での図書館大会でも話題になった短大設置基準の見直しと公私それぞれの図書館改善要項の改正、レベルアップであった。短大設置基準の改正についてはすでに公立短大図書館協議会で検討されている。

今後この問題をどこでどのように検討していくべきかもう少し時間をかけ、それぞれの団体でも検討してみるべきである。また同時に短大設置基準、各図書館改善要項と各図書館がどの程度になっているのか、実態調査も必要ではないかという意見も出された。

最後に鈴木副部長が閉会にあたって次のように述べられた。今日いろいろ問題点の洗い出しをしてもらった。短大図書館のレベルアップは各々の図書館で努力すべきであるが、よりどころとなる短大設置基準、短大図書館改善要項の改訂が必要である。そのためには各組織の協力によって問題に取りくむ、また対処する必要がある。

今後ともこの会を継続してすすめていきたい。と述べられ閉会した。

（菅原春雄）

東京は中央線、黒い覆面にオレンジ色の電車にのり、最近若者に人気が出ている吉祥寺の2つ先の駅、武蔵境下車、徒歩15分（バス6分）のところに、亜細亜大学と併設された日本経済短期大学がある。南門から入り、大学のシンボルであるイチョウ並木を抜けた左側に図書館がある。大学、短大（学生計6,500名）と共用である。

図書館入口の高い階段を昇り、左側に図書館入口、右側に図書館講堂がある。

図書館は、半地下1階と2階、3階より成る。全床面積は、3,356㎡で、その中に、書庫10層（オープン書架5層、移動式書架5層、計30万冊収容）と、開架閲覧室（140席28,000冊開架）、大閲覧室（220席）、をはじめ、雑誌閲覧コーナー、参考コーナー（参考書約5,000冊）、複写コーナー、視聴覚資料室、院生閲覧室、文献調査室（洋書 Bibliography 蔵）等のサービス設備を有している。

蔵書数は、約29万冊、受入雑誌数は、約2,700誌で、経済、経営、法学、アジア関係の図書を中心に収集されている。

蔵書の中には、本学にしか所蔵されていないものを含んだ、東西交渉史文献を収集した「岡本良知文庫」や中国を主とした外交関係文献を収集した「植田文庫」等特殊コレクションが含まれている。

日本経済短期大学の学科は、経営学科で、中は経営管理コースと経営情報処理コースに分かれており、図書は経営学、情報関係に力点が置かれ、大学の経営学部に合わせて収集されている。

大学内には、図書館とは別に、アジア研究所図書室があり、モンゴル、中国、韓国関係の図書や雑誌を柱に収集がなされている。アジア関係図書の収集は、アジ研と一書庫の一般公開及び基本文献指導への参加人数推移一

| 月・日 | ゼミ等グループ 参加人数 | 自由参加 人数 | 小計 | 年計 |
|-----|-----------------|------------|----|-----|
| 昭54 | — | — | — | 98 |
| | 10 | 57 | 41 | |
| 昭55 | 5 | 101 | 74 | 229 |
| | 10 | 7 | 47 | |
| 昭56 | 5 | 75 | 85 | 219 |
| | 10 | 0 | 59 | |
| 昭57 | 5 | 214 | 56 | 344 |
| | 10 | 0 | 74 | |
| 昭58 | 5 | 313 | 67 | 445 |
| | 10 | 0 | 65 | |
| 昭59 | 5 | 279 | 35 | 589 |
| | 10 | 221 | 54 | |

日本経済短期大学図書館

図書館によって収集されているが、本館では、洋書と東南アジア関係に力点が置かれ、一応は分担収集の形をとっている。

コンピュータ化については、今後の課題となっているが、現在一部分では、パソコンが導入されている。

パソコンを導入している部門は、収書、庶務係と視聴覚室である。

収書、庶務係では、パソコンによって予算管理を行っている。対象金額は約1億2千万で、予算収支月報、教員用研究室図書費の収支表など種々な資料を作成している。又、収書関係では、発注を日販オンラインシステム（NOCS）を利用し、図書館から直接日販の流通センターへオーダーし、発注処理の合理化、納品の敏速化を計っている。

視聴覚室では、日経ファイル、DIALOG等を利用し、オンラインによる情報検索サービスを行っている。

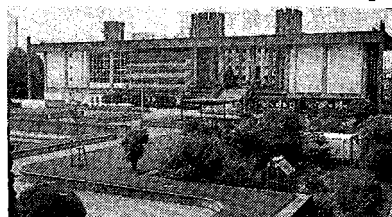
視聴覚室には、専任の係1名を置き、前述の情報検索やマイクロ資料のサービスを行っている。マイクロサービスの中心は、有価証券報告書である。

閲覧サービス部門は、奉仕係とレファレンス係に分けられ、貸出返却、広報資料作成、又雑誌の情報管理化を担当している奉仕係に4名、レファレンス係に1名という構成で運営されている。

特色は、指定図書制度の導入、ゼミ単位等の基本文献指導実施（春と秋年2回、期間1週間）、時事情報の書誌作成等があげられる。

図書館全体としての活動の特色は、社会人への開放、年1回の図書館展示会と講演会、があげられる。

〈毛利 和弘〉



1 蔵書（受入済図書）の概要（S60.3.31）

| 図書 | 冊数 | } | 246,198 |
|------|---------|---|---------|
| 和書 | 149,297 | | |
| 洋書 | 96,901 | | |
| 和 | 18,904 | } | 41,275 |
| 洋 | 22,371 | | |
| 特殊資料 | 677 | | |
| 計 | 288,150 | | |

今治明德短期大学図書館

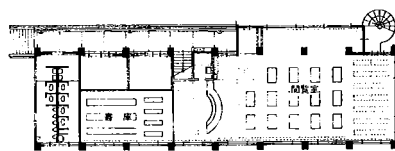
本学創立以来20年間、図書館は本館4階に置かれていたが、昭和59年2月1日特別教棟及び体育館の新築着工にあたり、特別教棟2階全域を図書館にあてる事となり（閲覧室・書庫面積 336 ㎡）この工事が昭和60年2月28日完成したので、同年4月27日から新館を開館した。なお新図書館には館長室のほか、隣接してブラウジングルームが設けられ、研究・会議にも利用出来るよう整備されている。

この図書館は本短大の「頭脳センター」であり、事実新閲覧室は「大脳前頭葉新皮質部連合野」のはたらきをそのままに外化した場としての機能を果たし、インスピレーションの享受・インフォメーションの吸収・レクリエーションエネルギーの醸成をなしつつあり、又書庫は「大脳左右側頭葉」即人類文化記憶の宝庫の役割を果たしつつある。更に情報化会に於ける「生涯教育と図書

館」という重要な教育機関としての使命を考えた場合、短大図書館といえど、もはや孤立独在に甘んじている時代ではなく、図書館間相互協力による地域社会文化向上への奉仕活動の重要性と共に本学々生・教職員の幅広い図書利用・研究調査が出来るようにと、先づ今治市立図書館との相互協力を実施、61年1月から「四国図書館相互協力協定」（昭和41年成立）に準拠して協定書を交換、一般市民への本館図書閲覧・貸出し、参考業務の協力を実施している。特に今治市立図書館からは学生向一般図書（現在約205冊）を一定期間明德短大図書館へ書架と共に移し置いて学生の自由な閲覧利用に供している。

このよ冗な事情から新館開館以来利用数は漸次増加しつつあるのである。

（館長 永田 政章）



2階 特別教棟図書館

◀特別教棟 2階図書館閲覧室

＜ 事 務 局 報 告 ＞

△ 会 勢

| | | | |
|--------|----|------|-----|
| 北 海 道 | 17 | 近 畿 | 58 |
| 東 北 | 13 | 中・四国 | 23 |
| 関東・甲信越 | 83 | 九 州 | 28 |
| 東海・北陸 | 32 | 合 計 | 254 |

△ 新加盟館紹介

北海道地区

○北海道栄養短期大学図書館

〒061-21 札幌市南区藤野400
Tel 011-591-8531

近 畿 地 区

○大谷大学短期大学部図書館

〒603 京都市北区小山上総町
Tel 075-432-3131

○関西鍼灸短期大学図書館

〒590-04 大阪府泉南熊取町大字小垣内990
Tel 07245-3-8251

○桜井女子短期大学図書館

〒633 奈良県桜井市桜井502
Tel 07444-3-1001

○西山短期大学図書館

〒617 京都府長岡京市栗生西条26
Tel 075-951-0023

△ 会 議

○本部役員会第3回・第4回

▽昭和60年9月19日(木)日本図書館協会 協議事項

1. 新規役員による運営体制の件
2. 短期大学図書館研究No.6の件
3. 昭和60年度加盟図書館員名簿刊行の件
4. その他

▽昭和61年1月25日(土)私学会館 報告事項

1. 短期大学図書館研究No.6刊行、配布
2. 私立短期大学図書館員名簿昭和60年版刊行
3. 短期図書館関係団体懇談会報告

協議事項

1. 昭和61年度総会の件
2. 昭和61年度事業計画の件
3. 役員の仕事分担の件

① 本部理事の仕事分担の件

② IFLA担当者

4. その他

△ 昭和60年度版 加盟館員名簿刊行なる

昨年度に引続いて昭和60年度版私立短大図書館協議会加盟館を中心に、今回は未加盟館も含めて収録した。

短大図書館の相互協力・その他に活用してください。

短期大学図書館研究第7号

一原稿募集のお知らせ

『短期大学図書館研究』第7号の原稿を募集しています。皆様の積極的な投稿をお待ちしています。

図書館学の研究・論考、日常業務でのアイディア・改善例、電算化の実践例、書誌、IFLA(今年、東京で大会が開かれる)に関連する記事など、自由なテーマでご投稿下さい。

締切日は6月30日、原稿枚数は指定原稿用紙で30枚以内とします。原稿募集要項、執筆要項は、同誌第6号の巻末をご参照ください。

指定原稿用紙は下記あてにお申込みください。

〒215 川崎市麻生区東百合丘3-4-1

調布学園女子短期大学図書館内綱木正己

昭和61年度総大会日程決る

日 時 昭和61年5月30日 午後

会場及び総大会内容、現在未定ですが、4月中に会員校にはご連絡いたします。

編集後記：会報第18号をお届けいたします。今年は図書館界にとって記念すべき年であります。それはIFLA東京大会が8月下旬東京で開催されます。短大図書館においても、この機に国際化に関心を示すことも有意義と思えます。また、昨年仙台で開催された全国図書館大会短大図書館分科会における討議でも見られるように、80年代後半の課題は、臨教審の成り行きを見ながら、短大図書館界に限っては、短大設置基準の見直し、公私短大図書館改善要項の底上げ、さらに、機械化、合理化にも取り組んでいかなければなりません。これらの事について、鈴木会長、もり、安部両顧問も述べられております。どうぞご覧くださいように。(すがわら記)

短期大学図書館研究第6号目次紹介

《特集：短期大学図書館の機械化》

| | | |
|-------------------------------------------------------|-------|----|
| マイコンによる図書館業務処理 | 片山喜八郎 | 1 |
| 図書館業務機械化の史的パースペクティブ | 渡辺 敏一 | 6 |
| LIBROSによる図書館整理業務 ～発注処理から目録作成まで～ | 山田 知健 | 12 |
| 杉野女子大学(部)図書館の機械化 | 松井 将子 | 18 |
| 東京女子大学短期大学部図書館の雑誌管理システム | 北島 明彦 | 23 |
| パーソナルコンピュータPC 8801を使った予算管理 ～事例報告～ | 井上 宏二 | 30 |
| ワープロの館外貸出システム | 宮城 清 | 35 |
| <hr/> | | |
| 明治末・大正期における通俗図書館について その1・ | | |
| ～北九条小学校資料を中心に～ | 谷口 一弘 | 41 |
| 学科新設と図書館新築設計が教えてくれたもの | 細川 寛 | 46 |
| 学習院女子短期大学図書館 ～その旧館から新館への飛躍～ | 佐貫 健 | 53 |
| 図書館利用指導のこころみ・ | | |
| ～神戸山手女子短期大学における実践報告～ | 八田 義一 | 58 |
| 図書館相互協力実情報告 1984 | | |
|昭和59年度全国図書館大会第4分科会(短大・高専図書館)準備 委員会 | | 64 |
| 短大図書館における受入業務 | | |
| ～短大図書館スタッフ・マニュアルへの指針～ その2 | 菅原 春雄 | 76 |
| 短期大学図書館に関する文献目録追録 '84 | 菅原 春雄 | 81 |
| <マイクロコレクション>Bibliotheca Shakespearianaの共同利用について | 上沢田 浩 | 84 |

短期大学図書館研究 第6号

頒価 ¥ 3,500. (送料共)

1985年11月15日発行

バックナンバー

1～3号各2,800

4号〃3,000

5号〃3,500

編集
発行

私立短期大学図書館協議会

〒181 東京都三鷹市牟礼4-3-1

東京女子大学短期大学部図書館内

電話 (0422) 45-4145

印刷

㈱ 新日本印刷

発売

〒105 東京都港区虎ノ門1-25-12

申込

電話 (03) 503-0428

【図書館用品の紹介】

書架用見出板”GBD-3”

| |
|---------------------------------|
| 分析化学 |
| アレルギー |
| 病院薬学 |
| 遺伝学雑誌 |
| 医学研究 |
| 医学のあゆみ |
| 現代の診療 |
| 耳鼻咽喉科展望 |
| 自律神経雑誌 |
| Journal of Antibiotics |
| 癌と化学療法 |
| 化学 |
| 科学 |
| 化学工業 |
| 動脈硬化 |
| 衛生化学 |
| Endocrinologia Japonica |
| 動脈硬化 |
| 衛生化学 |
| Endocrinologia Japonica |
| 医学と生物学 |
| 医療 |
| 胃と腸 |
| 千葉医学雑誌 |
| 治療 |
| クリニカ |
| 眼科臨床医報 |
| G a n n o |
| 癌の臨床 |
| Japanese Journal of Antibiotics |
| 耳鼻咽喉科 |
| 耳鼻咽喉科臨床 |
| 外科診療 |
| 月刊薬事 |
| 現代医療 |
| 千葉医学雑誌 |
| 治療 |
| クリニカ |
| 日立医学会誌 |
| ホルモンと臨床 |
| 遺伝 |
| 皮膚科の臨床 |
| 泌尿器科紀要 |
| 広島大学医学雑誌 |

図書館の書架の「案内表示」は、利用者と資料を円滑に結びつける上で大変に重要なものですが、これまでは余りつきつめてその改善や工夫がなされてこなかったように思います。現に市販のものをみわたしますと、表示内容が大分類的なもの（NDCの10区分等）は、立派なデザインのものが見つかる存在し、比較的値段が安いこともあってかなり利用されているようです。しかし排架資料について、自館の実情に沿ったより詳細な案内表示を試みようとする、市販のものには適当な用具がないため、高い値段で特別に注文したり、自館製で賄ったりせざるをえないようです。

その点、ここに紹介する（株）外文の書架見出板「GBD-3」は、下記の特長の通り、見出カードの内容を利用者（図書館）がワープロやタイプで自由に作成できます。したがって、従来の市販品のように表示内容の制約をうけることなく、自館独自の書架案内表示を作り上げることができます。材質はプラスチック製ですので比較的軽く、両面テープ等で簡単に書架の側面に取り付けることができます。値段も見出カードを自館で作成するのなら、下記の販売価格（4,500円）で求めることができますので、余り豊かでない短大図書館でも購入できそうな値段と申せましょう。

この製品は、同社が日本医科大学図書館の助言を得て開発し、現在のものはそれに改良を重ねながらコストダウンを計って完成したそうです。図書館用品とは、業者側からの一方的な供給や、図書館側からの単発的な特注に終始することなく、相互が知恵を出し合い、より良い製品をより安く開発し、その恩恵を互いに分かちあえることが望ましい。その意味で、この製品開発のいきさつは、幾つかの示唆を私たちに与えてくれるものといえます。

＜GBD-3の機能と特長＞

1. 比較的薄く軽いので、書架などに取り付けやすい
2. 見出カードの内容は、ユーザー側でワープロやタイプにより作成できる。
3. 見出カードと見出カードホルダー（見出カードを差込む透明のプラスチック製カバー）が抜き差しできるので、見出カードの加除、移動、修正等が可能
4. 見出カードや見出カードホルダーを表示内容により、大小混在して使用することができる
5. 見出カードを写真のような縦向き横読みでなく、横向き縦読みにも利用できる
6. アタッチメント（別売り）を使うと、2列型にして使用することもできる。

*販売価格 4,500円（送料実費）

*販売先 （株）外文

〒144 東京都大田区西蒲田7-60-13

Tel 03 (734) 5251